

## 世界のソーシャル・ビジネス

欧州編  
スペイン

デザイナーのカルロス・フェランドンさん

デザインが行動を変える  
たためるヘルメット

一見すると、三層に折りたたまれた美しいオブジェ。広げると、国際安全規格をすべてクリアした自転車用ヘルメットになる。バッグにしまって持ち歩きでき、かぶるとかっこいい。都会的でおしゃれな自転車乗りに人気のクロスカ(Closca)ヘルメットは、デザインを通して社会の問題を改善したいという思いから生まれた。

(富久岡ナヲ)

スペイン・バレンシア出身のデザイナーであるカルロス・フェランドンさんは小さい頃、「こんなものがあつたらいいな」という乗り物や道具などを思いつくままに紙に描いていた。いつしか作り方まで考えるようになり、何冊ものノートブックに商品アイデアがたまっていった。

大学ではエンジニアリングを学び、会社員になったカルロスさんはある日、ライフコーチから「あなたは起業家になるべきだ」と断言された。そこで会社を辞めて、35歳で経営学の修士号を修得した。

「デザインを通して社会の問題を改善する」という視点から、初めに注目したのが自転車ヘルメットだ。周りには、かっこ悪く、持ち運びに不便なヘルメットをかぶるのがいやで自転車に乗らない、という人が多い。EU委員会の調査によると、世界推定2億人の自転車ユーザーのうち、街乗りをするときにヘルメット

を装着する人はわずか24%しかない。

**規制で変革は起こらない**

行政が「安全のために」と呼びかけても効果は低い。装着を義務化すればかえって自転車離れにつながってしまう。そこでカルロスさんはひらめいた。ヘルメット自体がずばぬけてファッショ性の高いアイテムだったら、それをかぶるために自転車に乗ろうという人が増えるのではないかと。自転車ユーザーが増え



小さく折りたためるクロスカヘルメット  
(1200円/約1万6千円)

ば低炭素化に貢献でき、ヘルメットを装着していれば事故でケガをする率も減る。

2013年にクロスカを仲間と立ち上げ、帽子のように見えるおしゃれなヘルメットを作った。開発資金集めにはクラウドファンディングを利用、瞬く間に434人から目標を上回る6万ドル(約660万円)を集めた。

2016年は進化系である3層折りたたみタイプを発売。ソーシャルデザイン賞を含むたくさんの賞を獲得し、現在52カ国で発売されている。

「規制や強制では変革は起こらない。人々は、快適なライフスタイルから何かをマイナスにすることは苦手だ。より快適で、環境や社会が変わる仕掛けを考えることこそ、起業家に求められることだ」と語るカルロスさん。

新たな挑戦は飲み捨てのプラスチック飲料ボトルを減らすこと。まもなくウエアラブルなマイボトルを発売する。